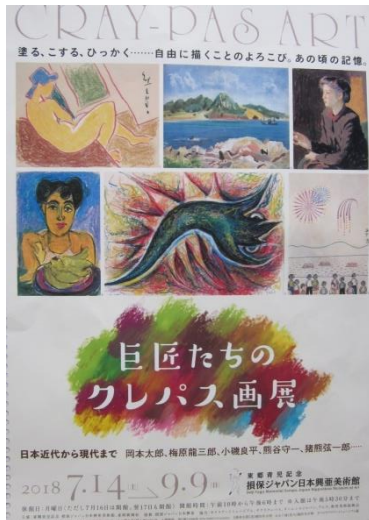


巨匠たちのクレパス画展

塗る、こする、ひっかく・・・自由に描くことのよろこび。あの頃の記憶
損保ジャパン日本興亜美術館（東京・西新宿） 2018.07.14～09.09

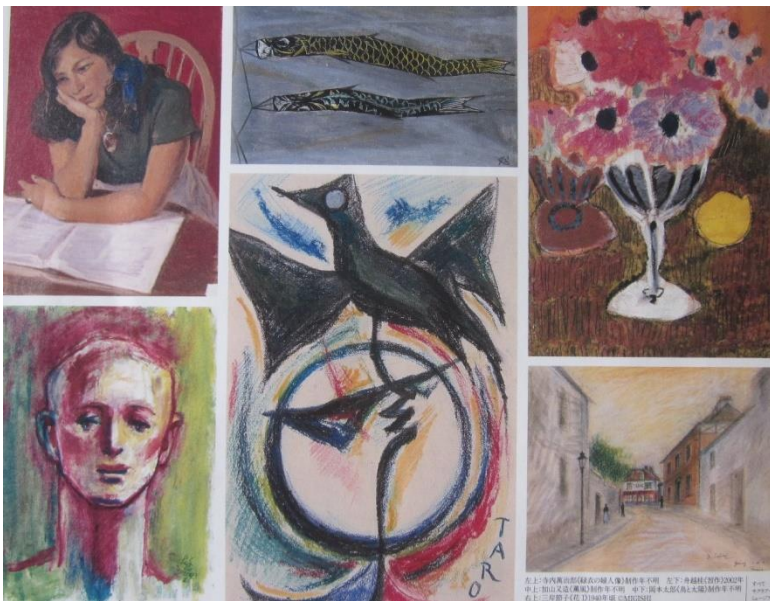


「クレパス」は、1925（大正14）年にクレヨンとパステルの良さを兼ね備えたものとして、頭文字「クレ」と「パス」をとって名付けられた製品で、子供のころには誰もが手にしたことのある画材である。

日本で発明されたこの世界初の描画材料「クレパス」は、従来の画材の描写上の長所に、絵具のような盛り上がる性質を加えたもので、画面によく定着して伸びやかで発色がよく、混色や塗り重ねや筆画などの幅広い表現が可能であるのが大きな特徴とされている。この「クレパス」は、古来、子供用の描画材料というイメージが定着しているが、これを使用した日本を代表する画家たちの優れた作品も数多く描かれている。

本展は、「サクラアートミュージアム」の絵画コレクションから、「クレパス」開発と普及に関わった画家「山本鼎」をはじめ、大正から昭和にかけて日本画壇で活躍した巨匠たちを中心に、現代作家らの作品も併せ「100人」を超える画家たちの魅力溢れる「クレパス画」の競演として紹介している。

< 展示作品の主なもの >



熊谷守一《裸婦》、山本鼎《江の浦風景》、小磯良平《夫人像》、猪瀬弦一郎《顔》、岡本太郎《虫》、山下清《花火》、寺内萬次郎《緑衣の夫人像》、加山又造《薫風》、三岸節子《花》、佐伯米子《フランスのグリシーという田舎町の風景》などの“知られざる名作が一堂に！”に展示されている。